

ネイチャー高知

No.54 2020年1月31日発行

2020年度総会・講演会開催のお知らせ

2020年度定例総会・講演会を次のとおり開催します。

何かとお忙しい時期ですが、お繰り合わせのうえ出席ください。

日時 2020年2月23日(日曜日) 午前10時～12時(講演会の開場は9時40分)

場所 高知市旭町3丁目115番地

こうち男女共同参画センター「ソーレ」5階 視聴覚室(下記の地図参照)

※事前の案内(メール)では研修室1としてありましたが視聴覚室になりました。

講演会 午前10時～10時45分(開場9時40分)

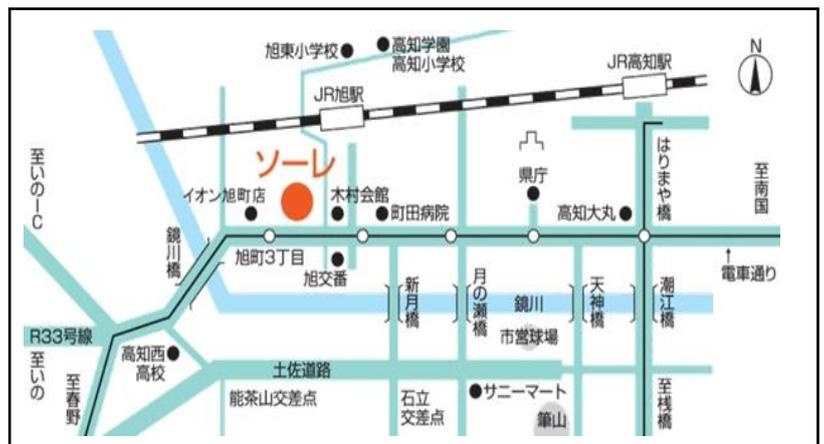
演題 「環境省モニタリングサイト1000里地調査(チョウ類)から見た重倉地区の自然」

講師 近藤英文さん(株式会社相愛勤務)

【講演内容の紹介】

重倉・久礼野地区は高知市の北の標高300mほどのところにあり、棚田や里山など豊かな自然が残っている場所で、当会でも春の七草観察会や棚田の植物観察会の会場として利用しています。またこの地域は、環境省のモニタリングサイト1000里地調査(略称「モニ1000里地調査」)の調査地となっています。近藤さんは2013年からこの調査地(モニタリングサイト)でチョウ類の調査をしておられます。2013年からこれまでのチョウ類の調査結果やチョウ類の生息場所を保全する視点から見た重倉・久礼野地区の自然環境の変遷や重要性について講演いただく予定です。

総会 午前11時から12時
議題 2019年度活動報告
2019年度会計報告
2020年度活動計画
2020年度予算
役員改選
その他



※ 総会への出欠の返事を同封の葉書で、2月16日(日曜日)までをお願いします。

また欠席される方は、委任状の欄への記入もお願いいたします。

※ 講演会は会員以外の方の聴講も自由です。お誘い合わせのうえ、ご参加ください。

※ ソーレは駐車場が狭いので、駐車できない場合があります。その際は、西300mほどのイオン旭町店さんの駐車場をご利用ください。お帰りにはお買い物もよろしく・・・

わたしのフィールドノート 山が枯れていく

田城 光子

アオモジはクスノキ科ハマビワ属の落葉小高木で、山溪ハンデイ図鑑「樹に咲く花」によれば、九州、沖縄、本州（山口県、岡山県）に分布するとされ、高知県には本来自生しない樹木である。高知県植物誌の調査を始めたころには、私たちが担当した県西部では、四万十川下流域と土佐清水市のごく限られた地域の民家の裏山に、植栽由来のものがわずかに確認されただけであった。しかし、その後三原村の県道わきの斜面で見つかったり、道路工事や墓地周辺の斜面の伐採跡などで、次第に分布を広げていくのが見られるようになった。アオモジの黄葉は他の落葉樹に比べて時期が遅く、12月から1月にかけてやっと色づき始め、落葉したかと思うとすぐに丸くて小さな蕾が目立つようになり、3月頃になると葉が展開する直前に開花する。雌雄別株で、雄株は枝にたくさんクリーム色の花が咲き美しく、切り花としての価値もあるが、雌株は地味で目立たない。枝や葉に精油成分があり芳香がある。果実は香料として利用されるそうだ。しかし、私の知る範囲ではこれを有効利用したという話は聞いたことがないので、もっぱら観賞用に植えられたものと思われる。約20年前には当地では珍しかったアオモジだが、今、あちこちで大繁殖し、二次林の風景が一変した場所がある。中筋川沿いの、以前養豚場があった場所は、長いあいだ荒れ地になっていた。飼料に種子が混じっていたと考えられる何種類もの外来植物が繁茂する草地だったが、気が付くとメガソーラーが設置され、背後の二次林が広範囲に伐採された。そのあと、あっというまにアオモジの純林が形成されたのである。さらに昨年2019年には、もっと驚きの異変があった。落葉したまま新しい葉を展開せず、遠くから見てもあきらかに立ち枯れていることがわかる個体が、稜線上にたくさん見られたのだ。それは次第に数を増しているのが遠目にもわかるようになった。

6月のはじめ、雨がこないうちにと、アオモジの山に登った。入り口付近にはアカメガシワ、ヤブツバキ、ヒサカキ、ハゼノキ、イヌビワ、サザンカなどが元気に葉を茂らせている。標高16mあたりにくると、枝がぼきぼきと折れるほど枯れてしまったアオモジが見られるようになった。アオモジの大きさは胸高直径が1・5cmから8cmと差があるが、樹高はどれも8mほどであった。稜線を65m地点まで歩き、アオモジの立ち枯れが稜線から北西向きの斜面に向かって広がっていることを確認した。この山以外にもアオモジの大繁殖した場所があるが、シイなどと混

生していて、枯れた木は見られない。この状態を関係機関に報告したが、「原因は不明」という返事があっただけだった。

その後、アオモジの立ち枯れはどんどん広がっている。初めてこのことに気がついた時から比較すると、2～3倍の面積で山が黒くなってきている。昨年信州を旅した際、安曇野付近から見える山のアカマツが広範囲に枯れ、山全体に黒い縞模様ができていることにも驚いた。我が家から見える入野松原のクロマツも、毎年大掛かりな消毒がおこなわれるにもかかわらず、いつまでたっても松枯れが終息をみない。今ノ山では、アカガシと思われる大きな樹が、点々と枯れているを見た。ナラ枯れといわれる病気だろうか。菌や昆虫が関係して、ブナ科の樹木に被害がでてくるらしいが、地球温暖化が被害の拡大に影響していると指摘する声もある。山が枯れるということは、たんに景観が悪くなるだけではない。生態系の維持ができなくなり、山に住む動物たちを追い詰め、農作物への被害を拡大し、水質を悪化させ、土砂崩れをおこす。世界中が頭を悩ませている二酸化炭素の削減など、叶わぬ夢となり、災害を引き起こし、人間の健康や生存をおびやかす事態を招くことになる。春には力強い芽生え、夏には爽やかな風を運ぶ緑、秋の紅葉と、自然の色彩は私たちに生きる力を与えてくれる。生きとし生けるもの、みながつつがなく暮らしていくために山の元気を取り戻したい。アオモジの立ち枯れについて原因と対策をご存知のかた、ご教示ください。



アオモジの紅葉し始めたころの葉と早春に咲く花

※写真は静岡県立森林公園のホームページの写真を利用させていただきました

(<https://kenritsu-shinrinkouen.jp/zukan/2019/01/22/アオモジ/>)

細川 公子

スミレの季節は街中から始まります。太陽の日差しが明るさを増す3月に入ると、街中の庭や公園、歩道の植え込み、アスファルトの割れ目など、身近な場所でスミレの花を見つけられます。街中のスミレは人々の往来や暮らしと共に生きていると思われ、街中にあっても人が立ち寄りなくなった公園では、全くと言っていいほどスミレが見つからないのです。また、それぞれ微妙に異なる環境に適応してすみ分けしています。ごく身近に観られるスミレ、ヒメスミレ、アリアケスミレ、ニョイスミレについて観察のポイントを挙げてみましょう。

【スミレ】一日を通して陽が当たる乾燥した場所に生える。車道のコンクリートの割れ目、鉄道の線路内など。花は濃紫色で大きく2.5センチ位。葉はへら型、花が終わった後の葉は翼がある。



の葉は翼がある。



【ヒメスミレ】スミレよりやや日陰を好み、人家の庭先や街路樹、植え込み内の地面が露出気味の場所など。花はやや赤みを帯びた紫で直径1センチと小さい。葉は長い三角形、花後にも翼はない。



【アリアケスミレ】湿り気のある場所を好み、水路沿いや少し湿った路傍など。花は白く紫条が目立ち花弁はスミレに比べるとやや細め。葉はスミレに比べて葉身が長く、葉柄が短い。

【ニョイスミレ】日陰のジメジメした場所を好む。陽当りの悪い家の裏庭などで1センチくらいの目立たない花を咲かせる。花期は他のスミレより遅い。

春先の天気の良い日は、ウォーキングや買い物のついでに、私たちの生活範囲で暮らししているスミレを観察してみましょう。



今一度、思い起こした事=NACS-J市民カレッジ「酒と肴と日本の風土」

松本 孝（自然観察指導員）安芸市土居

平成27年1月29日にNACS-J主催の「市民カレッジ」が三菱商事MC FOREST（東京都千代田区丸の内）で開催され私は参加していました。

生物多様性の恵みという視点で見れば、肴も地域ならではの恵みといえます。この講座では地域の風土を探り、日本酒と肴を味わうことでより深く楽しむことができました。

私は50歳代半ばになり、前に提示していたかもと記憶がありませんが今一度、思い起こしたことで、講座の内容をメモ形式でせんせつながら記します。

会場は東京駅近くにある三菱商事ビル内で、室内の壁に三菱財閥～三菱商事の年表が記されていて、岩崎弥太郎ら岩崎家の面々の顔写真がありました。私には見慣れた顔で自分が東京駅近くにいることを忘れる感じだったことを思い出します。

■「酒と肴から風土を探る」講師：青木賢人 氏（金沢大学地域創造学類環境共生コース准教授）

※地域の特産物の成立とその背景にある自然との関係を見る（地域の個性を考えるきっかけ）

食べているもの、飲んでいるものがすごいと思うと無駄なく食べる。残すこともない、飽食もない。私たちにサービスしてくれるのは生き物だけでない。水、空気といった地盤のことがある。

風土がうまい酒と肴をはぐくむ。白山市には5つの酒蔵がある。豊臣秀吉の花見では、各地のうまいものを持ってこいで加賀藩は酒を持って行った。何故、石川県は日本酒の名産地になりえたのだろうか。

※日本酒とは？旨い水と旨い米が旨い酒になる

日本酒の原料は米と水。うまい水と米がないとできない。酒作りには人の努力があるが、うまい水と米がないと努力してもそうならない。何故、石川県白山市で作れるのか。

※日本の気候、日本酒を作る環境と人

冬、北陸は積雪で山に入れない。毎年、確実に安定して降る。毎年雪が降るから、外れることなく毎年、雪が存在する。東京でも積雪のニュースででるが毎年ではない。

米を作るに水が必要。酒も米も水がいる。水は大切な条件。この石川の水と米が共にあるのは当たり前のことなのだろうか。何故、大雪が降る石川県が稲作地帯になるのだろうか。

天気予報でよく見るのに「西高東低」。この場合、日本海では雪。気圧の高いところより低いところへ風が流れる。シベリアにどうして高気圧ができるか。陸は温まるが冷める。海はなかなか温まらないが温まったらなかなか冷めない。

シベリアは寒い。内陸は冷えている。寒いからできる高気圧。大きな陸地と大きな海の間には日本がある。日本海は寒くない。対馬暖流が入っていて津軽海峡までいっている。小さい海流はあるが北から入ってくる寒流がない。日本海の海岸沿いの海は温かい。山を超えるしかな風は温度が低いので山で雪になる。

気温1～3℃が雪になる限界。白山、金沢はちょうどそのぐらい。冬に雪が降る暖かいエリアといえる。北緯35度で雪というところ。

ユーラシア大陸も太平洋も対馬暖流も白山も変わらない。このように石川地方は毎年同じように安定して沢山の水が得られる。

白山市は扇状地で地面を1m掘ると砂利が出てくる。水がしみ込むので米をやることのできない地だが、しみ込んでもそれ以上の水がきていたら米が作れる。土地条件が厳しいところだが稲作ができるということ。雪が降って春先に水があるというのが大事。

酒を作る人。杜氏。出稼ぎだった。半農。冬、雪が降るから農業ができないといった生活のリズムができる。雪が降る、水、杜氏の存在。米を作る条件がこの地にある。

日本は米を作る北限の地。日本は北限だから春に植えて気温が高い夏に育ち秋に収穫となる。太平洋高気圧が東北地方の南あたりまできて亜熱帯の気候になる。太平洋高気圧が一年中だと砂漠になるが、日本は夏の一ヶ月だけやってくる。境界の領域にあるので夏は亜熱帯になる。石川は世界でも稀な降雪地帯で水に恵まれ、夏はほんの一瞬、夏になり米も作れる地域である。

※日本有数の魚場・富山湾（水深の深さ、潮目が特徴）

酒だけをいただいても悪酔いし、「あて」が大事。一年中、家計簿をつけてくださいという調査があり、水産物購入は金沢が第一位。生魚をよく食べる県。魚屋に切り身は売っていない。

富山湾は非常に良い魚が獲れる。寒流が富山湾に入ってくる。冷たい水と温かい水が混ざっているのが富山湾。海の中で分離し両方の魚がいる。富山湾は水深が深い。なぜ深い？

水深300mを超える湾は日本で4つ。富山湾、駿河湾、相模湾、鹿児島湾。鹿児島湾自体は火山の火口。プレート境界線が横切っているところの湾は深くなる。

深いところと浅いところでいろいろな魚がいる。種が多様なので多様な魚を食べることができる。多様性×多様性。

※気候や地形など自然環境、人の暮らしの特徴が地域個性を生みだし、世界的な視点で食文化を見直す ⇒今回、今一度、思い起こしたこと

うまいものを理解することで、風土もふくめて楽しみ、伝える。その土地の素晴らしさを再認識する。

「土地の多様性 ⇒ 自然の多様性 ⇒ 暮らし・歴史・文化も多様性」

その土地土地に物語がある。うまい！と味わうその背景についている物語も味わうこと。

当たり前前に食べているものが当たり前ではないこと。旬を感じて食べられる良さ。自然と食と暮らしがつながっている。環境と結びついていること。

私は一斗樽を持っています。鏡開きができるタイプで周囲には菰（こも）を巻いています。樽に入れた日本酒を杓でいただくと、酒に木の香りがして美味しいです。

- ・ 旨いものと風土は、地域をより深く知ることのできる大切な視点であること
- ・ 当たり前前に旨いものがあるその背景をより知ると、実は当たり前ではないことがわかること

市民カレッジでは道具の話は出ませんでした。酒に関しても酒樽や杓、柄杓など木を使った道具もあり、木を使った暮らしにつながり、水が大事なのでそれは森林へとつながっていく視点であると思います。

講座では試飲があり、私はカバンの中に一合杓を入れていて、これで石川の銘酒が飲めたらさぞ旨いと思っていました。がそこまでの飲み会ではないことに会場へ着いてすぐにわかりました。

タンポポ調査西日本 2020 本調査が始まります

タンポポ調査とは

「タンポポ調査」は 1970 年代、環境の状態を調査するための手法として、大阪で開始されました。1974 年には「市民参加型調査」として多くの市民が参加し、それ以来 5 年ごとに継続的に調査が行われてきました。高知県では、2010 年の調査から参加し、これまで 2010 年 2015 年と 2 回調査してきており、今回が 3 回目の調査になります。その中で、新たに見つかった種もあり、高知県では 13 種類のタンポポが分布していることが分かってきました。さらに昨年の予備調査では、本山町で新たなクシバタンポポの生育地が確認されるなど、まだまだ新しい発見が続いています。

タンポポ調査の目的

西日本全体では

- ・タンポポを用いて環境変化による分布の変化を把握する
- ・タンポポ属各種の分布状況を記録する
- ・これらの調査を通し、多くの人に自然に目を向けるきっかけをつくる

といったことを目的にしていますが、高知県ではこれらに加え、シロバナタンポポの分布域の変化の把握やクシバタンポポが過疎化・土地利用の変化に伴ってどのように変化しているか、ヤマザトタンポポの実体の解明といった少し専門的な課題も掲げて調査をします。

調査期間

2020 年 2 月 1 日～5 月 31 日

調査方法

調査は簡単でタンポポの花を見つけて調査用紙に必要な内容を記載し、花と調査用紙をタンポポ調査実行委員会事務局（高知県立牧野植物園）に送るだけです。

個人でもグループでも参加できます。初めての方には調査説明会があります（次のページご覧ください）

調査に参加してみようという方は

高知県立牧野植物園内 高知県タンポポ調査実行委員会事務局

TEL：088-882-2673（標本庫直通）FAX：088-882-8635

担当 田邊由紀 まで、ご連絡ください。

高知県の低地に咲くタンポポ（シロバナタンポポ・セイヨウタンポポ）



タンポポ調査説明会

タンポポ調査に初めて参加する方を対象に調査説明会を開催致します。牧野植物園の園内に生育するタンポポを観察しながら、調査の仕方を学びます。

【日時】2020年2月8日(土) 13:30~15:00

【場所】高知県立牧野植物園 牧野富太郎記念館 本館 アトリ工実習室

【定員】30名

【参加費】無料 ※別途入園料必要

入園料一般730円、団体630円(20名以上)、年間入園券2,930円

※高校生以下無料、身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳・療育手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所持者と介護者1名および高知市・高知県長寿手帳所持者は無料。

【持ち物】筆記用具・飲み物・雨具

【服装】動きやすい服装・運動靴・防寒具

【参加方法・申込先】

2月5日(火)までに電話・メール・FAXにて、住所・氏名・連絡先をご連絡ください。

高知県立牧野植物園 植物研究課 田邊由紀

電話：088-882-2673(標本庫直通、土・日・祝を除く)

FAX 088-882-8635 E-mail kurahashi@makino.or.jp

高知県の山地に咲く在来タンポポ(上段左からツクシタンポポ・クシバタンポポ 下段左からキビシロタンポポ・ヤマザトタンポポ)



新入会員紹介

田邊 由紀さん

8月に広島県で開催された自然観察指導員講習会を受講された方について、日本自然保護協会から連絡とフォローアップの依頼がありました。連絡会への入会をお誘いしたところ入会いただきましたのでご紹介します。

今年から自然観察指導員連絡会に入会させていただきました田邊由紀です。得意分野？は植物ですが、生きもの全般興味があります（植物以外はなかなか覚えられません）。私が生きものに興味を持ったのは、東京環境工科専門学校に入ってからです。そこで個性的な先生方や仲間に出会い、刺激されたのが始まりでした。趣味は植物観察とシュノーケリングですが、シュノーケリングは最近身体が冷えるので長時間海に入れなくなり、その後はもっぱらビーチコーミングをしています。小学校から大学までは愛媛県松山市で育ち、高知の自然に触れたのは就職してからなので、あまり高知の自然に詳しくありませんが、みなさんからたくさん学んでいきたいと思えます。これからよろしくお願い致します。

(写真は外来種調査でオオイタドリを見上げる田邊さん)



撮っておきの写真コーナー

アオサギの日光浴

2019年8月11日に散歩の途中、神田川で見かけた風景です。面白い格好だったので、買ったばかりのスマホで写してみました。何のためのポーズかよくわからなかったのでネットで「アオサギ 羽を乾かす」で検索すると結構多くの事例があり、手持ちの図鑑「日本動物大百科3鳥類」まで行きつくことができました。それによると「日光浴」だそうです。まだ暑い夏の夕方だったので日光浴でなく夕涼みでは？と考えました。(坂本 彰)



行事案内

高知県立牧野植物園ミニ展示「調べようタンポポ」

【日時】2020年1月2日(木)～3月29日(日) 9:00～17:00

【場所】高知県立牧野植物園 本館 五台山ロビー

【主な展示内】■タンポポを知ろう ■タンポポのつくり ■高知県のタンポポ など

【料金】ミニ展示の観覧は無料ですが入園料(一般730円)が必要です。

ただし、高校生以下、身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳・療育手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所持者と介護者1名および高知市・高知県長寿手帳所持者は無料です。

観察会のお知らせ

スミシと早春の花観察会

筆山から皿ヶ峰にかけて、林縁や草原に咲くスミシ類、春の花を観察します。
筆山周辺では林縁や林床に咲くスミシが、皿ヶ峰では明るい草原に咲くスミシが観察できます。

日時 2020年3月21日(土曜日) 午前9時から

場所 高知市筆山・皿ヶ峰周辺 9時に筆山頂上駐車場に集合
※開催日がお彼岸と重なったため、例年と集合場所を変えていますので、ご注意ください。

講師 細川公子さん

持ってくるもの メモ用具 あれば図鑑

その他 雨天中止です

参加希望者は事前の申し込みをお願いいたします。

申込先 高知県自然観察指導員連絡会 坂本彰

TEL&FAX088-850-0102 Mail s-akira@mvd.biglobe.ne.jp

編集後記

今回も田城光子さん、細川公子さん、松本孝さんから投稿があり、無事にNo.54を作成することができました。投稿いただいた方には厚くお礼申し上げます。

新たに設けた「撮っておきの1枚」にはどなたからも投稿がありませんでした。観察会ではデジカメやスマホで写す方が多いのでこのコーナーを企画してみましたが、宣伝や働きかけが弱かったようです。次回は個別にお願いをしてみようと思います。とりあえず言い出しっぺの責任として1枚掲載しました。

田城光子さんからの投稿にありましたように、四万十市ではアオモジに原因がよくわからない異変が起きているようです。アオモジは高知市周辺でも次々と分布域を広げています。皆さんの周りでも疑問に感じられる現象がありましたら事務局までお知らせください。

「ネイチャー高知」高知県自然観察指導員連絡会会報

No. 54 2020年1月31日発行

事務局 780-8075

高知市朝倉南町3-51-1 坂本彰 方

TEL&FAX 088-850-0102

E-Mail s-akira@mvd.biglobe.ne.jp